

## 「社会福祉士実習指導者スキルアップ研修会」を開催しました。

平成25年11月17日(日)、山口県立大学 社会福祉学部棟にて、社会福祉士会 実習指導委員会の主催により、社会福祉士養成のための現場実習指導に関わる方を対象とした『社会福祉士実習指導者スキルアップ研修会』を開催しました。

『実習プログラミングについて～SWを伝えるプログラミング～』というテーマで、実際の実習指導に役立つ実習プログラムのあり方を学びました。障害・児童・高齢施設や、地域機関、養成校などの幅広い分野から、本会会員・非会員、合わせて33名の参加者がありました。



まず、実習プログラミングの紹介が行われました。

こども家庭支援センター海北 山根千絵様、美祢市社会福祉協議会 羽根一孝様、萩市中津江デイサービスセンターなごみ 松尾孝真様の3名の方に事例を提供していただき、各事業所にて実施している実習プログラミングの内容や、実習プログラム作成上の苦勞・困ったこと、実施しての自己評価（学生の目標達成度、成長度、伸び悩み要因、職員の協力体制、指導上の留意点）などについて説明をしていただきました。



その後、講義では、「実習プログラミングについて～SWを伝えるプログラミング～」と題し、山口県立大学の横山正博教授にお話をいただきました。

実習プログラミングでは、①体験する場面だけの設定だけでなく、②その場をなぜ提供するかという理論的な根拠を明確化し、③プログラムの意図をいかに実習生に伝え、④実習生の動機づけ、課題遂行能力を高め、⑤養成校の課題とを関連付けたプログラムとして構成するかが課題であり、⑥そのためには、ソーシャルワーカーとして実習指導者の普段の実践のありようや、基礎知識、技術が常に問われ（OJT）、⑦実習指導者自身の周辺環境（スタッフ、養成校教員、利用者・家族）との調整も必要となります。

講義後は、職種別に6グループに分かれグループワークを行いました。効果あるプログラム上の工夫、今後活用できる工夫、研修の気づき・課題について、各グループで意見交換を行い、最後に横山先生から講評していただきました。

自らの業務のなかのソーシャルワークを考える機会になり、参加者それぞれに、気づきと課題を持ち帰りました。



### 1. 実習の効果を実感したプログラム上の工夫

- 多職種の業務に同行、説明を受ける。
- 職場内の実習理解。職場にとってもプラス（人材育成）
- 事前に自分の価値観だけでなく、多面的に見るように説明。
- 実習生の驚き、ときめきに欠けている。
- 障害の体験（車椅子、言語障害、麻痺）～それぞれの体験を通して身体拘束、権利擁護など学べる。
- コミュニケーションをとりにくい利用者に対してのアセスメントのコツ。  
→ ICFだけでなく、想いのマップを取り入れる。
- ロールプレイを行う。（指導者が保護者役になる等）

### 2. 今後のプログラミングに活用できる工夫

- 実習生のストレスケア（日々の振り返り）
- 朝礼で一日の目標を発表してもらう。
- 3週目の最初に担当者会議を開催するようにしている。  
実習生に緊張感も生まれるし、後から修正も出来る。
- チェックシートの作成
- 行政面への関わり～多職種で学んでもらえるようにする。
- 学校からの要望、ねらいをプログラムに組み込む。
- 利用者の権利擁護として関連している要素をプログラムに取り入れる。

### 3. 今日の研修の成果と今後の課題

- 実習生の独自の目標だけでなく、養成校の求める目標やねらいもプログラムに取り入れていく。実習生にも伝える。
- 事前学習、事前訪問を含めたプログラム。
- 支援計画を作っても、その計画をやったの評価まで出来ない。（3～4週間以内に）
- 1つ1つの業務を行う前に事前説明、意義を伝える。
- 物事に対しての意味づけを行うことが大切。
- 意図を持ったコミュニケーション
- 「コミュニケーションとってて」とほったらかしにしない。
- 社会資源の体験が難しい。
- 職員の力量不足。

今後も、実習指導委員会では、実習指導者の要件となった「実習指導者講習会」の受講後の、フォローアップとして、養成校と連携して、実習指導者のスキルアップを支援していきます。

